

【事例集】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策(2/8)

【熊鈴の携行・常備】

⇒工事等関係者は熊鈴を携行する。
⇒現場事務所等に熊鈴を常備する。

事例 1：作業中に携行



事例 2（作業中に携行）



事例 3（現場事務所に常備）



【ラジオの携行・設置】

⇒ラジオ作動により人の存在を知らせ、熊を遠ざける。

事例 1

（管理施設内で24時間常時作動）



事例 2（作業員のラジオ携行）



事例 3（工事中のラジオ稼働）



【ホイッスルやホーンの携行】

⇒工事等関係者は電子ホイッスルを携行する。
⇒熊が怖がる猟銃音、熊が嫌がる猟犬の鳴き声、爆竹の音などで熊を遠ざける
ホーンを携行する。

事例 1（ホイッスル携行）



事例 2（ホーンの携行）



【鐘の設置・鳥獣害防除機器の活用】

⇒管理施設内に鐘を常設する事で施設利用者に配慮。
⇒センサーにて感知し音声や光により威嚇する鳥獣害防除機器を活用。

事例 1（管理施設内に鐘を常設）



事例 2（鳥獣防除機器を活用）

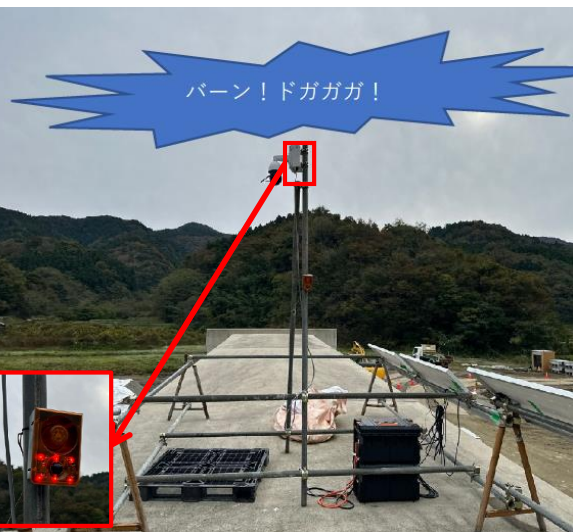


【事例集】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策(3/8)

【大音量スピーカーや低周波音スピーカーの設置】

⇒24時間常時、夜間のみなど用途に応じて活用（事例1では最大130dBの音量）
⇒管理区間に低周波音スピーカーを設置し、熊を寄せ付けない。

事例1（大音量スピーカー）



事例2（低周波音スピーカー）



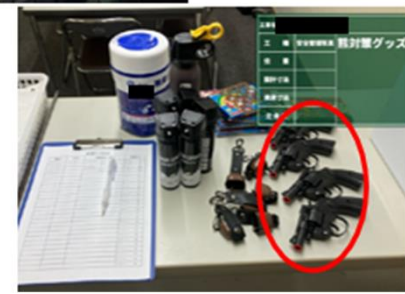
【サイレンの活用、火薬銃の携行】

⇒現場稼働前にサイレンを鳴らし人の存在を知らせ、熊を寄せ付けない。
⇒火薬銃を携行、常備する。

事例1（現場着手前のサイレン）



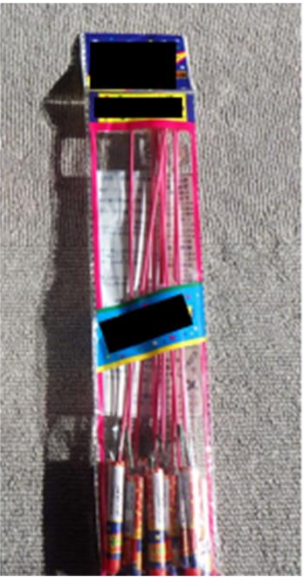
事例2（火薬銃の携行、常備）



【ロケット花火の活用】

⇒ロケット花火を鳴らしてから作業着手を徹底。

事例1



事例2



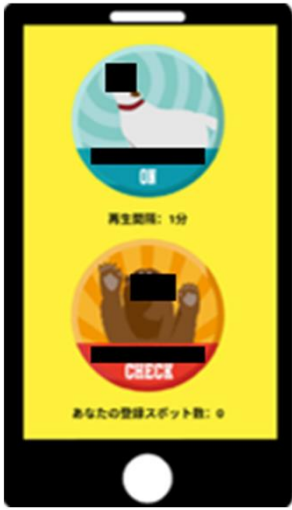
事例3



【熊よけアプリの活用】

⇒位置情報サービスを使用して、ユーザーがマップに登録されている熊出没ポイント付近にアクセスする場合、警報音で警告する。
⇒作業中に使用し、人の存在を知らせる。

事例1



事例2



【事例集】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策(4/8)

【獣よけ線香の携行】

⇒通常の線香原料に唐辛子粉末などを練り込んだ線香を携行。

事例 1



【現場内に獣よけシートを設置】

⇒熊が嫌がる匂いを放つシートを現場内に設置し、熊を寄せ付けない。

事例 1



【忌避剤（狼の尿）の現場内存置】

⇒クマの天敵である野生の狼のテリトリーにマーキングする習性を利用して、狼の尿を設置し、クマを寄せ付けない。

事例 2

事例 1



【忌避剤（その他）の現場内存置】

⇒忌避剤の携行や管理区間への忌避剤設置。

事例 1（工事現場に忌避剤を設置）

事例 2（管理区間に忌避剤を設置）



【事例集】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策(5/8)

【赤外線カメラを搭載したドローンの活用】

⇒赤外線センサーカメラ搭載のドローンを活用した把握。

事例 1



【草や藪の刈り払いによる視認性向上】

⇒クマが潜む可能性のある草や藪などの刈り払いを実施し、クマが潜む場所をなくすとともに、視認性を向上。

事例 1



【フラッシュライトの設置】

⇒センサーが車などの動きを検知して、フラッシュライトが自動点灯し、熊を寄せ付けない。

事例 1



【熊の餌となる柿や栗の実を除去】

⇒クマの餌となる柿の実の除去や管理施設内の栗の落実を除去・清掃する。

事例 1 (柿の実の除去)

事例 2 (栗の落実を除去・清掃)

